

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
2020年 7月 31日	
愛知県知事 殿	
提出者 住 所 愛知県知多市北浜町24番3 氏 名 王子コーンスターチ株式会社名古屋工場 工場長 田中 誠 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0562-55-1161 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	王子コーンスターチ株式会社名古屋工場
事業場の所在地	愛知県知多市北浜町24番3
計画期間	2020年4月1日～2021年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	09 食料品製造業
② 事業の規模	製造品出荷額 : 10,387,000千円
③ 従業員数	45名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	でん粉製造 : 植物性残さ→再生処理業者へ委託、堆肥として再資源化 廃プラスチック類(フレコンバグ等)→再生処理業者へ委託、燃原料として再資源化 廃プラスチック類(混合物)→最終処分業者へ委託し埋立処分 木くず(木製パレット)→再生処理業者へ委託、チップとして再資源化 廃油→再生処理業者へ委託、燃料として再資源化 排水処理 : 汚泥→自ら脱水・乾燥後、有償物(肥料)として売却

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

本社(リスク管理部)

工場長(統括責任者)

工場環境委員会

環境保全室長
(産業廃棄物処理責任者)

業務課

工務課

品質保証課

(産業廃棄物処理施設技術管理者)
(特別管理産業廃棄物管理責任者)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（2019年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	植物性残さ	汚 泥
	排 出 量	95 t	19,065 t
	(これまでに実施した取組) ・ 生産計画段階での調整による製品品種切替ロスの低減、及び排水負荷の平準化による余剰汚泥の発生抑制 ・ 工程管理の徹底による不良品発生の抑制		

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	植物性残さ	汚 泥
	排 出 量	130 t	22,000 t
	(今後実施する予定の取組) ・ 生産計画段階での調整による製品品種切替ロスの低減、及び排水負荷の平準化による余剰汚泥の発生抑制(継続) ・ 工程管理の徹底による不良品発生の抑制(継続)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 廃プラスチック：種別に分別保管 ・ 植物性残渣：規格外品の一部を有価で販売
③ 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 廃プラスチック：種別に分別保管（継続） ・ 植物性残渣：種類毎の分別で有価処理を促進（継続）

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（2019年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	218 t	t
	（これまでに実施した取組） - 排水処理工程の余剰汚泥を自社中間処理施設にて脱水・乾燥し、肥料として全量売却（肥料登録済み） - 前年度廃棄物量は別紙のとおり		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	220 t	t
	（今後実施する予定の取組） - 脱水・乾燥処理した余剰汚泥の肥料としての販売は今後も継続 - 廃棄物量目標は別紙のとおり		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（2019年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	18,847 t	t
	（これまでに実施した取組） - 排水処理より発生する余剰汚泥を自社中間処理施設にて脱水・乾燥による減量化実施 減量化した乾燥物は有償物として全量売却（肥料登録済み） - 前年度廃棄物量は別紙のとおり		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	21,780 t	t
	（今後実施する予定の取組） 余剰汚泥の自社での脱水・乾燥による減量化は継続		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（2019年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組） ・発生していない		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組） ・今後も発生する予定なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（2019）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	（これまでに実施した取組） ・種類及び委託量等は別紙の通り。 ・契約している業者の多くが優良業者の認定を受けているので、全委託量の約9割以上が優良業者委託となった。		

② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・計画は別紙の通り。 ・分別による有効利用化を促進する(継続)。		
	※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

項目			産業廃棄物の種類				
			汚泥	木くず	植物性残さ	廃プラスチック類 (廃コンテナ等)	廃油
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項	①現状	排出量	19,065	22.8t	95t	27.7t	1t
	②計画【目標】	排出量	22,000	13.0t	130t	22.0t	0.00t
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項	①現状	再生利用量	218t	0t	0t	0t	0t
	②計画【目標】	再生利用量	220t	0t	0t	0t	0t
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項	①現状	熱回収処理量	0t	0t	0t	0t	0t
		中間処理量	19,065	0t	0t	0t	0t
	②計画【目標】	熱回収処理量	0t	0t	0t	0t	0t
		中間処理量	22,000	0t	0t	0t	0t
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に に関する事項	①現状	埋立処分量	0t	0t	0t	0t	0t
	②計画【目標】	埋立処分量	0t	0t	0t	0t	0t
産業廃棄物の処理の委託 に関する事項	①現状	全処理委託量	0t	22.8t	95t	27.7t	1t
		優良業者委託量	0t	0t	87t	27.7t	0t
		再生利用業者委託量	0t	22.8t	95t	27.7t	1t
		認定熱回収業者委託量	0t	0t	0t	0t	0t
		認定以外熱回収業者委託量	0t	0t	0t	0t	0t
	②計画【目標】	全処理委託量	0t	13.0t	130t	22.0t	0.00t
		優良業者委託量	0t	0t	10t	22.0t	0t
		再生利用業者委託量	0t	13.0t	130t	22.0t	1.00t
		認定熱回収業者委託量	0t	0t	0t	0t	0t
		認定以外熱回収業者委託量	0t	0t	0t	0t	0t

※現状:【前年度(2019年度)実績】

項目			産業廃棄物の種類				
			金属くず	水銀使用製品 (産業蛍光灯等)	ガラス・コンクリート・ 陶磁器くず		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項	①現状	排出量	0t	0.000t	0.80t		
	②計画【目標】	排出量	0t	0.200t	2.00t		
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項	①現状	再生利用量	0t	0t	0t		
	②計画【目標】	再生利用量	0t	0t	0t		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項	①現状	熱回収処理量	0t	0t	0t		
		中間処理量	0t	0t	0t		
	②計画【目標】	熱回収処理量	0t	0t	0t		
		中間処理量	0t	0t	0t		
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に に関する事項	①現状	埋立処分量	0t	0t	0t		
	②計画【目標】	埋立処分量	0t	0t	0t		
産業廃棄物の処理の委託 に関する事項	①現状	全処理委託量	0t	0.000t	0.80t		
		優良業者委託量	0t	0t	0.80t		
		再生利用業者委託量	0t	0.000t	0t		
		認定熱回収業者委託量	0t	0t	0t		
		認定以外熱回収業者委託量	0t	0t	0t		
	②計画【目標】	全処理委託量	0t	0.200t	2.00t		
		優良業者委託量	0t	0t	2.00t		
		再生利用業者委託量	0t	0.200t	0t		
		認定熱回収業者委託量	0t	0t	0t		
		認定以外熱回収業者委託量	0t	0t	0t		

※現状:【前年度(2019年度)実績】

2020年度計画根拠

・汚泥: 過去3年間の平均値(発生: 21,605t、有効利用率: 約1%)を基に算出

・木くず: 樹脂バレへ変換の為、過去3年間減少傾向(前年対比3年間平均: 約76%)。昨年実績の約80%で算出。

残渣、廃ブラ、ガ陶くず(埋立): 昨年実績並みとした。

・廃油: 2019年度内に委託業者要求量(20Lペール缶×40缶)貯まる見通し(有価除く)。20L×40缶×0.9(比重)≒約1

・水銀使用製品(水銀): 蛍光灯、水銀灯⇒LED化の為、すでに相当量保管しているため。

項目			産業廃棄物の種類			
			金属くず	水銀使用製品 (廃蛍光灯等)	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項	①現状	排出量	0t	0.0t	7.5t	
	②計画【目標】	排出量	0t	0.1t	0t	
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項	①現状	再生利用量	0t	0.0t	0t	
	②計画【目標】	再生利用量	0t	0.0t	0t	
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項	①現状	熱回収処理量	0t	0.0t	0t	
		中間処理量	0t	0.0t	0t	
	②計画【目標】	熱回収処理量	0t	0.0t	0t	
		中間処理量	0t	0.0t	0t	
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項	①現状	埋立処分量	0t	0.0t	0t	
	②計画【目標】	埋立処分量	0t	0.0t	0t	
産業廃棄物の処理の委託に関する事項	①現状	全処理委託量	0t	0.0t	7.5t	
		優良業者委託量	0t	0.0t	7.5t	
		再生利用業者委託量	0t	0.0t	0t	
		認定熱回収業者委託量	0t	0.0t	0t	
		認定以外熱回収業者委託量	0t	0.0t	0t	
	②計画【目標】	全処理委託量	0t	0.1t	0t	
		優良業者委託量	0t	0.1t	0t	
		再生利用業者委託量	0t	0.1t	0t	
		認定熱回収業者委託量	0t	0.0t	0t	
		認定以外熱回収業者委託量	0t	0.0t	0t	

※現状：【前年度（平成28年度）実績】